

# 国際開発 ジャーナル

International Development Journal

国際協力の  
最前線をレポートする

FEBRUARY 2025  
No.818

2

<https://www.idj.co.jp>



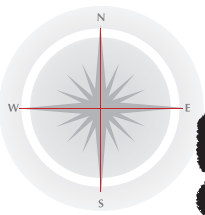
特集

## “水”の未来が危ない

鉦研工業／国際航業／三祐コンサルティング／地球システム科学／利根エンジニア  
日本テクノ／WaterAid Japan／リクシル／横浜市水道局／国際協力機構  
橋本 淳司／佐藤 寛

FDJ REPORT ミャンマー軍事クーデターから4年





# 羅針盤

主幹 荒木 光弥

## 歴史はつながっている インドネシア人とマダガスカル島

### オーストロネシア人の登場

周知のように、インドネシアのジャワには8～9世紀に建立された世界最大の仏教遺跡ポロブドゥール寺院がある。筆者は何回もこの巨大仏教遺跡を訪ねているが、そのたびに深い感動に浸っている。日本では、60年代にポロブドゥール遺跡復興運動が興り、多くの寄付が集められたことがあった。ちょうどその頃に本誌の発行が始まった。

ある日、遺跡（壁画）の一部に巨大な帆船が彫り込まれているのに気付く。この時、インドネシア人はもともと海洋民族であるという印象を深めた。その後、アフリカへの援助（ODA）が大きな課題となり、アジア主義の著者も、特にアフリカ主義に徹していた国際協力機構（JICA）理事長の緒方貞子さんに感化されて、アフリカに目を向けるようになった。

アフリカに関するいろいろな本を読んでいる時、面白い記事に目が留まった。それは、すでにご存

じかもしれないが、ピューリッツァー賞をもらったジャレド・ダイアモンド著『銃・病原菌・鉄』（草思社発行）の下巻の一節「オーストロネシア人のマダガスカル島への拡散」である。次にその一節を紹介してみたい。オーストロネシア人とは、今で言うならば、ほぼインドネシア領に住んでいた人たちを指している。

オーストロネシア人のマダガスカル島（アフリカの東海岸に近い）への拡散は、先史時代にアフリカで起きた人口移動の一つであるとみられている。オーストロネシア人とは学術的な呼び方であって、現在のインドネシア、パプアニューギニア、マレーシア、カリマンタンなどを含む地域に住んでいたらしい。

そのオーストロネシア人のマダガスカル島への入植については、早ければ西暦300年頃まで、遅くとも西暦800年頃までに起こったことが、マダガスカル島の考古学調査から分かっている。入植した彼らは、長い孤立の歴史を通じて

独自の進化を遂げたマダガスカル島特有の動物に出会い、おそらくそのほとんどを絶滅させてしまったものと思われる。

他の惑星からやってきたような動物の中には、たとえばジャイアント・エレファント・バード（学名エピオルニス）や、ゴリラほどの大きなキツネザル科のメガラダピス、コビトカバなども含まれていた。

さらに、マダガスカル島で発見されている最古の遺跡からは、鉄器や家畜、農作物の遺物も出土されているので、マダガスカル島にはカヌーで漂着した数人の漁師以上の規模でオーストロネシア人が入植したと思われる、としている。つまり、オーストロネシア人は遠征隊を組み、大挙してマダガスカル島にやって来たと考えられている。

### 奇跡的航海

しかし一方では、先史時代に4,000マイル（約6,400キロ）に及ぶ航海は、計画的に行われたも

特集

# “水”の未来が危ない

地球温暖化と気候変動への懸念が世界中で強まる一方、水問題への関心は今ひとつ不足しているようだ。2030年までに世界の水供給が40%不足するとの予測もあり、水の危機が今そこまで迫ってきている。命を支える水と衛生を取り巻く現状やアフリカの村落給水の事例を掘り下げ、その重要性と展望を探る。



小学校に設置した手洗い設備で手と顔を洗う生徒たち(マダガスカル)  
=WaterAid/Ernest Randrianimalala提供、2023年